

# zxjafont パッケージ (v0.2a)

八登崇之 (Takayuki YATO; aka. “ZR”)

2013/01/28

## 1 概要

X<sub>q</sub>LaTeX + fontspec でのフォントファミリ名を直接指定する方式は「好きなフォントを指定する」という点では、pLaTeX よりも格段に使い易いが、日本語を扱うためには必ず何らかの設定を行う必要があり、これが煩わしく感じられる場合もある。本パッケージでは、pLaTeX において一般的に行われている設定を予め用意しておいて、簡単に呼び出せるようにしている。

■前提フォーマット X<sub>q</sub>LaTeX。

■依存パッケージ

- fontspec パッケージ

## 2 使い方

以下のようにパッケージを読み込むだけである。(ユーザ命令・環境はない。)

```
\usepackage[⟨メイン設定⟩,⟨サブ設定⟩,⟨他オプション⟩]{zxjafont}
```

⟨メイン設定⟩は1つだけ指定できるが、⟨サブ設定⟩と⟨他オプション⟩は任意個数指定可能である。もしfontspecが未読込の場合は自動的に読み込む。X<sub>q</sub>LaTeXには和文と欧文の元来の区別がないので、このパッケージで指定するフォントが全ての文字に通用する。ただし、zxjatypeパッケージでは和文と欧文を区別するので、それと併用の場合は和文のみにフォント設定が適用される。

### 2.1 メイン設定

総称ファミリの設定 (⟨fontspec⟩の\setmainfont、\setsansfont、\setmonofont) を行うもの。

■単ウェイト用の設定 明朝・ゴシック各々1ウェイトのみを用いる設定。セリフ (\rmfamily) に明朝、サンセリフ (\sffamily) と等幅 (\ttfamily) にゴシックを割り当てる。さらに、pLaTeXの習慣に合わせて、セリフの太字 (\bfseries) もゴシックにする。(これは必ずしも好ましい設定ではないことに注意。)

- ms : MS フォント (「MS 明朝」「MS ゴシック」) を使用する。
- ipa : IPA フォント (「IPA 明朝」「IPA ゴシック」) を使用する。

- kozuka4: Pro 仕様の小塚フォント (「小塚明朝 Pro R」「小塚ゴシック Pro M」) を使用する。
- kozuka6: Pr6 仕様の小塚フォント (「小塚明朝 Pro-VI R」「小塚ゴシック Pro-VI M」) を使用する。
- kozuka6n: Pr6N 仕様の小塚フォント (「小塚明朝 Pr6N R」「小塚ゴシック Pr6N M」) を使用する。
- hiragino: ヒラギノフォント「ヒラギノ明朝 Pro W3」「ヒラギノ角ゴ Pro W6」を使用する。

■多ウエイト用の設定 明朝・ゴシック各々2 ウェイトを用いる設定。<sup>\*1</sup> セリフに明朝、サンセリフと等幅にゴシックを割り当て、各々について通常 (`\mdseries`) と太字 (`\bfseries`) を個別に設定する。

- ms-dx: MS フォントおよび Microsoft Office 付属の日本語フォントを使用する。
- ipa-dx: IPA フォントおよび Microsoft Office 付属の日本語フォントを使用する。
- hiragino-dx: ヒラギノフォント「ヒラギノ明朝 Pro W3・W6」「ヒラギノ角ゴ Pro W3・W6」を使用する。

※ Xe<sub>La</sub>TeX は「フォント非埋込の PDF 生成」に対応していない。

## 2.2 サブ設定

`fontspec` では使用するフォントを `\newfontfamily` 命令で増やすことができる。それを利用した追加設定である。

- hg: Microsoft Office のフォント (HG フォント) に対応する、以下のファミリー命令が定義される。
  - `\hgmcfamily`: HGS 明朝 B、太字 =HGS 明朝 E。
  - `\hgprfamily`: HGS 創英<sup>プロ</sup>レ<sup>ン</sup>ス EB
  - `\hggtfamily`: HGS ゴシック M、太字 =HGS ゴシック E。
  - `\hggufamily`: HGS 創英角ゴシック UB
  - `\hgmfamily`: HG 丸ゴシック M-PRO
  - `\hgkkfamily`: HGS 教科書体
  - `\hgksfamily`: HG 正楷書体 -PRO
  - `\hggsfamily`: HGS 行書体
  - `\hgppfamily`: HGS 創英角<sup>ホ</sup>ッ<sup>フ</sup> 体
- hiraginomg: ヒラギノの丸ゴシックを使う設定。
  - `\hmgfamily`: ヒラギノ丸ゴ Pro W4

※ `fontspec` では取り扱うフォントのウェイトを通常 (`\mdseries`) と太字 (`\bfseries`) の 2 つに制限している。多くの OS での扱いに合わせているようである。

## 2.3 他オプション

- prop: プロポーションナル幅のフォントを用いる。例えば、「IPA 明朝」の代わりに「IPA P 明朝」、「HGS 行書体」の代わりに「HGP 行書体」を指定する。既定で用いるのは等幅のフォントだが、「欧文のみプロポーションナル」の変種 (HG フォントの場合「HGS ~」名称のもの) がある場合はそれを優

---

<sup>\*1</sup> `fontspec` では 3 ウェイト以上の設定ができない。

先させている。

※ `zxjatype` を用いる場合は、和文は等幅フォントを用いることが前提なので、このオプションは指定できない（エラーになる）。

- `scale`={実数}：スケール値（`fontspec` の `Scale` 属性の値）。既定値は、`BXjscls` の文書クラスおよび `zxjatype` パッケージで指定されている場合はその値、なければ 1 となる。
- `feature`={属性リスト}：このパッケージで指定されるフォント全体に通用する `fontspec` の属性の指定。